

企画セッション「始めよう！実践研究」

宮崎七湖（早稲田大学）・広瀬和佳子（神田外語大学）

1. 本企画の趣旨

本セッションは、2013年度に引き続き、委員企画セッションとして企画されたものである。これから実践研究をしてみたいと思っている人を対象に、発題者と参加者、そして、参加者同士のやりとりを通して、以下の3つの目的を達成することを目指した。

- (1) 自分がなぜこの実践をやっているのかを明確化する
- (2) 次の実践を改善するための問題意識を持つ
- (3) 自分の実践を他の人に伝えられるようになる

セッションには21名が参加した。4名程度の小さなグループに分かれ、以下の活動を行った。

2. 本セッションの流れ

まず、自分の実践を振り返り、自分が実践で目指していることや大切にしていること、ならびに、実践の問題点を明確化するための活動を行った。具体的には、まず、(1)自分の実践の内容や特徴、目指していることや大切にしていること、(2)自分の実践で問題だと思っていること、悩んでいることを表すキーワードをできるだけたくさん付箋に記入してもらった。次に、キーワードをグループにまとめながら整理していった。その後、整理されたキーワードをもとにして、自分の実践をグループの人に説明しながら実践を改めて振り返る機会とした。

次に、「次の実践を改善するための問題意識を持つ」ための活動を行った。まず、ワークシート1に「自分の実践が目指していること」と「自分の実践で問題だと感じていること」をまとめた。その後で、「目指していること」と「現状＝問題だと感じていること」のギャップを埋めるために何ができるかを考え、文章化した。さらに、まとめたものをグループメンバー間で伝え合う活動を行った。

最後に、自分の実践を他者に伝えるために必要な要素について考えた。自己の実践を他者に伝えるためには、まず、実践が全体の文脈の中のどこに位置するのか、その位置付けを意識することが重要である。例えば、ある活動は授業の中に、授業は科目の中に、科目はプログラムの中に、プログラムは教育機関の中に存在し、それぞれにはそれぞれの目的がある。自分が他者に伝えようとしている実践は、どこに位置しているのかを意識して、明確に伝える必要がある。以上を説明した後で、ワークシート2に自己の実践を他者に伝えるための情報を整理する予定であったが、時間がなくなってしまったため、説明するに留まった。

3. 参加者からの声

セッションに参加した参加者からのアンケートをもとに、セッションを振り返る。

1) セッションに期待したこと

「なぜこのセッションに参加しようと思ったのか」という問いに対し、「実践研究を始め

たい」、「実践報告を実践研究に発展させたい」、「実践研究を始めるきっかけがほしかった」といった期待を述べた参加者が多かった。また、「実践研究の基本が知りたい」、「実践研究をやってみたいが知識がない」など、実践研究に関する知識や考え方のヒントを得るために参加した者も多かった。さらに、「実践に対する不安があったから」、「実践について悩んでいるから」といった、現場の悩みや不安を理由として挙げ、実践の問題の共有や解決を期待する参加者もいた。

2) 参加して感じたこと

実際にセッションに参加してみて感じたことや学んだこと、得られたこととして、「自分の抱えている問題がブレインストーミングによって整理された」、「自分の実践について改めて考えることができた」といった、振り返りによる自己の実践の目的や問題点の整理を挙げる参加者がいた。このような問題点の整理は「グループの人との話し合いを通じて疑問点・問題点が明確化できた」というように、他者と話をすることで実現されたと報告する参加者もいた。さらに、「様々な現場のそれぞれの事情、問題が聞けた」、「様々な人と話して世界が広がった」といった、異なる現場の様子や課題を知ることができたことへの満足感や、「具体的な実践に基づく話し合いから気づきを得た」、「他の方からアドバイスを得られてよかった」、「グループ活動によって新しい発想やヒントが得られた」といった他者との協働による学びや気づきを挙げる参加者も多かった。

一方、もっと詳しく知りたかったこととしては、時間の関係で割愛したワークシート2を挙げる参加者がいた。さらに、「ワークシート2から研究につなげていく過程」、「実践研究の計画についてもっと詳しく学びたい」といった、実践研究を始めるに当たっての具体的な計画やプロセス、「実践研究の事例」といった、実践研究を始めるのにヒントとなるもの、「問いの深め方」、「実践研究の背景にある理論」といった、実践研究をよりよくするための指標となるものが挙げられた。これらの回答からは、本セッションで考えたことや整理したことを基に、参加者が実践研究を実施し、それを発表していくための具体的な研究のデザイン、計画をするといった、実践研究を進めていくための活動や支援が求められていることがわかった。

4. おわりに

参加者のアンケートの回答から、参加者が「実践の目的や問題点を明確化し」、「次の実践を改善するための問題意識を持つ」という目的を、振り返りやグループメンバーとのやりとりを通じて達成でききたのではないかと考える。参加者が本セッションの活動を通して考えたことは、次の実践の改善に必ず繋がるものであり、これこそが実践研究の第一歩であると言える。

その一方で、実践を他者に伝えるために必要な要素を意識した上で、「自分の実践を他者に伝える」という活動（ワークシート2）ができなかったため、この点において、参加者の期待にそえなかったと言えるだろう。また、実践研究の具体的なデザインをする、計画を立てるための活動や情報、支援のニーズがあることもわかった。今後、「実践研究を始めたい」、「実践研究を発表したい」という人々に、どのような活動の場が提供できるのか、どのような支援ができるのか、実践研究フォーラム委員で考えていきたい。